

## はじめに

児童生徒を取り巻く環境は、数年単位、いや数か月単位で大きく変化し、将来の予測が本当に困難な時代になってきています。これからの時代は、生活の中のあらゆる場面でICTを活用することが必然となってきます。

今回改訂された学習指導要領の中では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図ることとしています。あわせて、そのために必要なICT環境を整えること、さらに、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが求められています。情報教育や教科等の指導におけるICT活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実を図るようになっています。

令和元年12月には「教育の情報化に関する手引き」が文部科学省より提示されました。

この中では、「情報活用能力の育成」、「プログラミング教育の推進」、「教科等の指導におけるICTの活用」、「校務の情報化の推進」、「教師に求められるICT活用指導力等の向上」、「学校におけるICT環境整備」等々の章があり、これからの情報教育の推進に向けた方向性が詳しく示されています。

近年、枠内に示したような用語を含んだ文章を数多く見るようになってきていると思います。これらの内容を、児童生徒、保護者、地域の方々に分かりやすく説明できるでしょうか。また、今後の学校教育において具体的な実践を行うことができるでしょうか。

「超スマート社会」として新たに「Society5.0」が提唱され、IoTによりサイバー空間とフィジカル空間を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともに、AI等の活用により量と質の全体最適を図る社会を目指す。

GIGAスクール構想では、Society 5.0時代に生きる子供たちの未来を見据え、児童生徒向けの一人1台学習用端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する。

日々進化し続ける社会の中で学校教育も常に対応を図っていかなければなりません。

視聴覚・情報教育委員会としては、これからの時代を生きる児童生徒の情報活用能力の育成を目指して継続的に取り組んでいます。そして、令和元年度の委員会の歩みとして、本研究紀要まとめました。

愛媛県教育研究協議会の県下の各支部及び県全体としての活動報告、各研究会の参加報告、実践事例、実態調査などの内容も多岐にわたっています。また、今後の研究実践につながる情報も数多くあります。

情報は収集し、蓄積するだけでは意味がありません。様々な情報の中から必要な情報を的確に選択し、効果的に活用してこそ、真の情報活用と言えると思います。本研究紀要の情報を、まずは共有していただき、日々の教育活動に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご指導いただいた関係機関の皆様、原稿をお寄せいただいた先生方、編集にご尽力いただいた先生方に心よりお礼を申し上げます。